黙想の祈り:年間第 18主日(B年)

黙想のテーマ:「聖体は神への渇きを癒す」「イエスに似るための食物」「典礼に主の御姿を見る」

- 一聖体は神への渇きを癒す。
- 一イエスに似るための食物。
- 一典礼に主の御姿を見る。

イエスは、命のパンについての話に おいて、前もって聖体の真の意味を

お示しになります。ミサの福音で読 まれたように、ある人たちは、主に モーセを重ねて思い出していまし た。エジプト脱出の折り、モーセの 仲介で、天からパンーマナーが降っ てきたのでした(出エジプト記 16.2-4.12-15参照)。キリストは、 新しいマナである神のパンについて 話すのに、この話をお使いになりま す。そのパンとは、天から来て世に いのちをもたらすーく特定の誰か > 一人です。すると弟子たちは主に お願いしました。「主よ、そのパン をいつもわたしたちにください」(ヨ ハネ6.34)。確かに、彼らが感じてい たのは身体的な飢えではなかったの です。それは「普通の食べ物では満 たせない、もっと根本的なもので、 永遠の命への飢えのことです。マナ は、キリストに起こった事の前表で す。主ご自身が〈世にいのちを与え る〉〈生きたパン〉となり、人々の 永遠への飢えを満たしてくださるの です。イエスに聞き従っていた人た

ちは、マナのしるしで告げ知らされていたことを実現してくれるよう、 イエスに願います。多分、彼らの願いが叶えられていたことに気がついていなかったのでしょう」 ITI。

要求が大胆なら、イエスの答えは、 もっと新奇で目もくらむようです。 「わたしが命のパンである。わたし のもとに来る者は決して飢えること がなく、わたしを信じる者は決して 渇くことがない」(ヨハネ6.35)。聖 ホセマリアが言っています。「これ が新しきよきおとずれです。『新し い』というのは、かつては想像もで きなかったほど深遠な愛を告げる知 らせであるから、又、『よきおとず れ』というのは、全ての善の中で最 高の善であられる神と親密に一致す ることほどよきことは他にないから です。そして『新しきよきおとず れ』というのは、何らかの形で、と しか言いようのない方法で、今から

永遠の生命にあずかることを可能に してくれるからです」[2]。

聖体に一致することは、私たちが誰 かを夢中で愛する時に、何か似てい ます。私たちは、誰かを知り、一緒 に居ることを望みます。会う度に満 足しますが、それと同時に何か物足 りなく感じます。その人への愛が本 物であるなら、一定の時間だけ会う ことでは満足できない時がおとず れ、その人と全生活を共にすること を望むようになるでしょう。聖体拝 領によって神への飢えが満たされま す。それと同時に、より頻繁に拝領 することだけではなく、永遠の命に おいて主にまみえる望みを燃え立た せてくれます。聖体のパンは、この 目標に向かって歩み続けるために欠 かせないものです。イスラエルの民 が約束の地を指して砂漠を進んだの に似ています。このようにイエス一 聖体のパンも一は、天国の幸せに向

けて、私たちを招いておられるので す。

ミサ聖祭の第二朗読で、聖パウロは エフェソの人たちを励ましていま す。「以前のような生き方をして情 欲に迷わされ、滅びに向かっている 古い人を脱ぎ捨て、心の底から新た にされて、神にかたどって造られた 新しい人を身に着け、真理に基づい た正しく清い生活を送るようにしな ければなりません| (エフェソ 4.22-24)。使徒のこの招きに応えた いのですが、度々、どのようにした らよいのか分からないことがありま す。おそらく、ニコデモがしたよう に(ヨハネ3,4参照)私たちも、生まれ 変わるためにどのようにしようかと 思ったでしょう。望んでいるように 内的改善を達成するにはどんな方法 があるのでしょうか。ミサ聖祭に、

具体的で確かな方法を見出すことが できます。「多分、どのようにすれ ば神のこの大きな愛に応えることが できるだろうかと、しばしば考えた ことでしょう。また信者としてどの ような生き方をすべきかをはっきり と知りたいと思ったこともあるで しょう。答は、全ての信者にとって 実行可能な簡単なことです。つま り、御ミサに愛を込めて与り、御ミ サの中で神との交わり方を学んで行 けばよいのです。なぜならこの犠牲 の中に、主がお望みになることが全 て含まれているからですします。

司祭叙階式で、司教は、新司祭にパテナとカリスを渡しながら言います。「これからあなたがたが実現することに細心の注意を払いなさいななたがたが手にする方に倣い、全生活を主の十字架の神秘で彩りなとい」四。命のパンは、私たちの神との一致を少しずつ深めていきます。聖体によって生きるとき、私たち

は、拝領したものを模倣しつつ、似た者になっていきます。人間の食べ物は、消化吸収されて人体の一部に変わりますが、逆説的に、命のパンを頂くと、それとは逆のことが起こります。私たちが、天から下られた方に似ていくのです。

聖体におけるイエスの現存は、私た ちへの愛を表しています。それは、 私たちの近くで、私たちに見えると ころに留まり、人々に同伴したいと いう、主の熱い望みを反映している のです。それゆえ、聖体は「教会が 歴史の中を旅するうえで携えること のできる、もっとも貴重な宝だと言 うことができます。だからこそ教会 は、聖体の神秘に対してつねに強い 関心を抱いてきたのです。またこう した関心は、歴代の公会議と教皇を 通じて、権威をもって表明されてき ました丨⑸。私たちにも、聖体に対 するこの細やかさが次第に深まって いきますように。

「わたしたちが聞いて悟ったこと、 先祖がわたしたちに語り伝えたこと を、後の世代に語り継ごう|(詩編 78,3-4)。詩編作家のこの主張は、救 いのみ業を、数々の神の宝物を人々 に忠実に伝えるという望みの要約で す。確かに、聖体が私たちの所有物 ではないことは明らかです。人が 造ったのではなく、三位一体の〈作 品〉です。それで、私たちはそれを 忠実に守り、神が、私たちに共に歩 むようにとおかれた人々を、主に近 づかせようと努めるのです。聖体は 福音宣教者に大きな力を与えてくれ るからです。私たちにできること は、私たちが知り、愛している聖体 を忠実に守り広める事だけです。聖 体への愛を深める一つの方法は、

「信仰と恩恵に関する最高の教育者 である」 (5) 教会の典礼に与ることで す。 時には、典礼の儀式や動作がよく分 からないことがあり得ます。する と、拒否反応をおこしたり、余り重 要視しなくなったりして、普段、あ まり意味も考えずにやっている、雑 事の一つであるかのようにしてしま います。しかし、いつも、単に無意 味な動作であると考えずに、目の前 で行われていることの意味を少しず つ把握するようになっていくのが普 通です。事実、これらの動作は、 「幾世紀にもわたって練られてきた キリスト理解の忠実な表現であり、 それらは、わたしたちがキリストの ように考えることを教えている。わ たしたちの精神をこれらのことばに 一致させることによって、わたした ちは心を主に向かってあげるのであ る上の。例えば、司祭が、ミサを始 める前に祭壇に接吻するのは崇拝の 表明です。聖ホセマリアが言ってい ました。「心から望んで祭壇にのぼ り、祭壇に触れるやいなや、恋い焦

がれたように愛情を込めて接吻しま

「典礼が神に栄光を帰するのは、わたしたちが、神がその中に住まわれる近寄りがたい光(1テモテ6,16参照)の美しさに何かを加えることができるからではありません。また、歌のついではありません。またの歌を記されたしたちが何かを加える。 典礼が神に栄光を帰するのは、典によってわたしたちが、この地上において、諸神秘の祭儀の中で神に出 会うことができるからであり、その 出会いによって、主の過越しから命 を得ることができるからです。わた したちは、自分の罪によって死に、 キリストによって再び生かされるよ うになりました。わたしたちは神の 栄光です。私たちが『救われたのは 恵みによるのです』(エフェソ2,5)」 goo 教会の典礼を究めることができ るよう、聖マリアにお願いしましょ う。こうして、私たちは一種の感受 性を培い、ミサ聖祭とあらゆる状況 において、その御子を再認識できる ようになるでしょう。

[1] 聖ヨハネ・パウロ二世、1997年5 月31日説教。

[2] 聖ホセマリア、『知識の香』152 番。

- <u>[3]</u> 聖ホセマリア、『知識の香』88 番。
- [4] ローマ典礼、司祭叙階の式文、 153番。
- [5] 聖ヨハネ・パウロ二世、『教会にいのちを与える聖体』9番。
- [6] ベネディクト十六世、2011年5月 6日講話。
- [7] 典礼秘跡省、2004年3月25日「あがないの秘跡」5番。
- [8] 聖アウグスティヌス、説教67。
- [9] フランシスコ、『わたしはせつ に願っていた』43番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-nenkann-18shujitu-b/(2025/12/16)